

斜面工学研究小委員会

第一回 環境と生態系ワーキング 議事録

日時 平成15年7月23日(水)13:00~17:30

場所 土木学会(四谷)2階会議室 C

参加者

砂防エンジニアリング(株) 中濃耕司
横浜国大 菊池多賀夫
埼玉大学 佐々木 寧
山梨大学 後藤 聡
応用地質(株) 上野将司
気象庁 岡田憲治
(株)環境地質 稲垣秀輝
飛島建設 上杉章雄
中野緑化工技術研究所
中野祐司
日鐵建材工業 岩佐直人
宅地開発研究所 吉田洋子

オブザーバーの参加(聴講希望学生)

加藤瑞樹(横浜国大)
佐藤 正(埼玉大学)
佐藤和裕(埼玉大学)

議 題

1.WGの方向性について 佐々木 WG 世話役

2.斜面安定化のための緑化工法について

話題提供

斜面安定と樹木に関する研究動向について

上杉章雄 飛島建設

根茎と斜面・法面の安定

中野祐司 中野緑化工技術研究所

自然斜面環境を保全した斜面安定工法

岩佐直人 日鐵建材工業

緑と両立した急傾斜地崩壊防止工事の事例について

(住民参加による緑と両立する崖の管理について)

吉田洋子 宅地開発研究所

3. 今後の環境と生態系 WG の進め方

次回も話題提供を中心に議論する

テーマは環境,生態系からみた斜面 次回も話題提供者を募集する

4. “Q&A 執筆内容について

WG で話題となった項目を入れて充実をはかる

5. 次回の開催予定 9月17日(水) 午後1時より 土木学会(四谷)会議室にて

討論の概要

・斜面に生育する樹木の,斜面安定化にどの程度寄与するかについて,これまで発表されている文献の紹介があり、モデル化がどこまで可能なのか、研究がどこまで進んでいるのかの紹介があった。また、斜面安定の検査評価方法、緑化工法の紹介もされた。

議論・モデル化,一般化は、データ不足、場(地盤)の違い、ケース毎の違いが大きく難しいのではないかと。林学分野でも一般化に至らなかった。

- ・北海道での事例でモデル化まで進めた例もある。
- ・モデル化できない部分をおぎなう方法が必要、異なる視点での価値づけ、例えば多様化係数とか、哲学的な価値とか
- ・植生は、自らの生育地を破壊するはずもなく、場を維持するために作用しているはず
- ・しかし、環境の大きな変化には、植生は簡単にその場を見捨てる。場を移したり、再生ということで子孫を維持する。
- ・斜面の安定化に植生が寄与する部分は、やはり表層で、地盤全体の動きには対応できないのでは
- ・定期的に攪乱される立地では、攪乱周期に合わせた植生が発達しているとも見れる。
- ・潜在自然植生という概念があるが、一般にはマクロな気候的極相林で表現されており、微地形や土壌などのミクロな環境変化に対応して考えられていないのでは。
- ・斜面にある緑(樹林)の安全管理に、さまざまな現時的問題があることが紹介され、議論がふくらんだ。

議論・緑があることは良いことは誰もが認めることだが、現実的な安全管理となると、危険要因ともなりうる。観念論だけではすまない。

- ・安全管理の技術・方法論、法律的解釈の確立、金銭面を含め、問題点を整理しておくことが必要。

などなど多数の意見がでました。自身の記憶のためにも少しメモしておきました。記載もれや追加ありましたらどうぞ連絡してください。